



クラスタのセットアップ

この項の内容は次のとおりです。

- [クラスタのセットアップ \(1 ページ\)](#)

クラスタのセットアップ

Cisco Prime Collaboration Assurance は、次のクラスタを管理します。

- Cisco TMS
- Cisco VCS
- Cisco Unified CM

ネットワーク内で複数の Cisco TelePresence Management Suite (TMS) を使用している場合は、クラスタ内でこれらのアプリケーションを設定して、Cisco Prime Collaboration Assurance アプリケーションが管理できるようにする必要があります。つまり、Cisco Prime Collaboration Assurance は 2 つのスタンドアロン型 TMS を管理できないということです。

Cisco Prime Collaboration Assurance は、アプリケーションサーバのみを監視します。データベース インスタンスはモニタしません。クラスタ内のすべての Cisco TMS アプリケーション サーバに対して状態ポーリングが実行されます。

TMS クラスタの場合、会議の詳細は、[クラスタの管理 (Manage Clusters)] ページで定義されたプライマリ Cisco TMS からインポートされます。

Cisco Prime Collaboration Assurance を MSP モードで導入した場合は、CTX クラスタも管理できます。Cisco Prime Collaboration Assurance は、複数の CTX クラスタを管理できません。クラスタ内の CTX 管理サーバに対して状態ポーリングが実行されます。CTX クラスタの場合、セッションの詳細はプライマリ管理サーバからインポートされます。

Cisco TelePresence Manager、Cisco TMS クラスタ

Cisco TelePresence Manager、Cisco TMS クラスタを検出する前に、クラスタの詳細を [クラスタの管理 (Manage Cluster)] ページに入力する必要があります。Cisco TelePresence Manager または Cisco TMS の検出中に、Cisco Prime Collaboration Assurance は、クラスタの詳細とデバイス

のクレデンシャルを使用し ([デバイスインベントリ (Device Inventory)] > [インベントリ管理 (Inventory Management)] > [クレデンシャルの管理 (Manage Credentials)])、管理アプリケーションを検出します。



- (注) CTX クラスタを追加するには、プライマリ CTX 管理サーバに API ロールを持つ新しいユーザを作成してください。この手順の詳細については、「[Prime Collaboration Assurance 用のデバイスをセットアップ](#)」のページを参照してください。

Cisco Prime Collaboration リリース 11.5 以降の場合



- (注) Cisco TelePresence Manager と Cisco TelePresence Exchange (CTX) クラスタはサポートされていません。

Cisco TMS クラスタを検出する前に、[クラスタの管理 (Manage Cluster)] ページでクラスタの詳細を入力する必要があります。Cisco TMS の検出中に、Cisco Prime Collaboration Assurance は、クラスタの詳細とデバイスのクレデンシャルを使用し ([インベントリ (Inventory)] > [インベントリ管理 (Inventory management)] > [クレデンシャルの管理 (Manage Credentials)])、管理アプリケーションを検出します。

Cisco TMSのクラスタを管理するには、次のようにします。

ステップ 1 選択 [デバイスインベントリ (Device Inventory)] > [インベントリ管理 (Inventory Management)]。

Cisco Prime Collaboration リリース 11.5 以降の場合

移行方法 [インベントリ (Inventory)] > [インベントリ管理 (Inventory Management)]

ステップ 2 [インベントリの管理 (Inventory Management)] ページで、[CTS-MAN/TMS クラスタの管理 (Manage CTS-MAN/TMS Cluster)] をクリックします。

Cisco Prime Collaboration Assurance を MSP モードで展開した場合は、[CTS-MAN/TMS クラスタの管理 (Manage CTS-MAN/TMS Cluster)] をクリックします。

Cisco Prime Collaboration リリース 11.5 以降の場合

[インベントリの管理 (Inventory Management)] ページで、[TMS クラスタの管理 (Manage TMS Cluster)] をクリックします。

Cisco Prime Collaboration Assurance を MSP モードで展開した場合は、[TMS クラスタの管理 (Manage TMS Clusters)] をクリックします。

ステップ 3 [クラスタの管理 (Manage Cluster)] ウィンドウでクラスタ名を入力し、[クラスタタイプ (Cluster Type)] ドロップダウンリストから項目を選択します。

ステップ 4 TMS クラスタの場合は、プライマリ アクティブ サーバ、セカンダリ アクティブ サーバ、またはパッシブ サーバの IP アドレスを入力します。

Cisco Prime Collaboration リリース 11.5 以降の場合

TMS クラスタの場合は、プライマリ アクティブ サーバ、セカンダリ アクティブ サーバ、またはパッシブ サーバの IP アドレスを入力します。

ステップ 5 [追加 (Add)] をクリックして、新しいクラスタを追加します。

これらのクラスタを検出するための論理検出を実行します。論理検出の詳細については、「[デバイスの検出方法](#)」を参照してください。ネットワークで初めてクラスタを検出する際に、CTS-MAN と TMS のクラスタに対して、プライマリ、セカンダリ、ホットスタンバイ、およびロードバランササーバの詳細を入力できます。後でインベントリの更新や再検出を行う際は、CTS-MAN と TMS クラスタのプライマリ サーバの詳細を入力するだけで済みます。
